

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和7年度 技術情報第33号
(ピーマン・オクラのモモアカアブラムシの殺虫効果試験)について (送付)

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、周知およびご指導をよろしくお願
いいたします。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ (<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshou/index.html>) にも掲載しています。



令和7年度 技術情報第33号

ピーマン、オクラで発生したモモアカアブラムシに対する各種薬剤の殺虫効果試験を行いましたの
で、防除指導の参考としてください。

- 1 対象病害虫 モモアカアブラムシ
- 2 対象作物 ピーマン、オクラ
- 3 供試虫 南大隅町根占(根占個体群)、錦江町大根占(大根占個体群)の各ピーマンほ場
及び指宿市山川(指宿個体群)のオクラほ場でモモアカアブラムシを採集し、累代
飼育した無翅成虫
- 4 検定実施機関 農業開発総合センター生産環境部病理昆虫研究室

5 殺虫効果試験の結果と注意事項

1) 試験結果

- (1) ピーマンで用いる主要農薬5剤を供試し、2個体群の無翅成虫に対して殺虫効果試験を行った
結果、補正死亡率(96時間後)が2個体群とも80%以上となった農薬は、ダントツ水溶剤、コル
ト顆粒水和剤の2剤であった。(表1)。
- (2) オクラで用いる主要農薬4剤を供試した結果、補正死亡率(96時間後)が80%以上となった農
薬はダントツ水溶剤の1剤であり、次いでコルト顆粒水和剤の殺虫効果が高かった(表2)。
- (3) ベネビアOD、マラソン乳剤は、個体群間で殺虫効果に差が見られた。ウララDFの殺虫効果
は、ピーマンで採集した2個体群、オクラで採集した1個体群ともに殺虫効果がやや低かった(表
1, 表2)。

2) 注意事項

- (1) ピーマン、オクラで供試した農薬はそれぞれの作物で登録があり、アブラムシ類で適用がある
ものの(令和8年3月18日現在)、使用前には必ずラベル等を確認し、使用基準を遵守する。
- (2) 同一農薬の連用は薬剤抵抗性の発達を招く危険性があるため、作用性の異なる農薬(RACコー
ド参照)のローテーション散布を行う。
- (3) ほ場の農薬散布状況によって殺虫効果は異なることが予想されるため、散布後は効果を確認す
る。

6 参考

表1 ピーマン：モモアカアブラムシに対する各種農薬の殺虫効果

供試農薬名	成分名	希釈倍率	IRAC コード	放飼96時間後の殺虫効果 ¹⁾	
				根占	大根占
ベネビアOD	シアントラニリブ [®] ロール	2,000	28	◎	△
ダントツ水溶剤	クロチアニジン	2,000	4A	◎	◎
マラソン乳剤	マラソン	2,000	1B	◎	×
ウララDF	フロニカミド [®]	2,000	29	△	×
コルト顆粒水和剤	ビ [®] リフルキサゾン	4,000	9B	◎	◎

1) 殺虫効果: 放飼 96 時間後の補正死亡率を × : 0~30%未満、△ : 30~60%未満、○ : 60~80%未満、◎ : 80%以上で示す。

補正死亡率 = { (処理区死亡率 - 無処理死亡率) / (100 - 無処理死亡率) } × 100

2) 採集日: 令和7年4月10日(南大隅町根占)、同年4月23日(南大隅町大根占)

3) 検定日: 令和8年1月15~18日、同年1月22~25日

4) 試験方法: ピーマン葉を薬液に浸漬し(葉片浸漬法)、マンジャーセルを用いて検定(1区6頭放飼、5反復)

5) 展着剤: 加用なし。

表2 オクラ：モモアカアブラムシに対する各種農薬の殺虫効果

供試農薬名	成分名	希釈倍率	IRAC コード	放飼96時間後の殺虫効果 ¹⁾
				指宿
ベネビアOD	シアントラニリブ [®] ロール	2,000	28	△
ダントツ水溶剤	クロチアニジン	2,000	4A	◎
ウララDF	フロニカミド [®]	2,000	29	△
コルト顆粒水和剤	ビ [®] リフルキサゾン	4,000	9B	○

1) 殺虫効果: 放飼 96 時間後の補正死亡率を × : 0~30%未満、△ : 30~60%未満、○ : 60~80%未満、◎ : 80%以上で示す。

補正死亡率 = { (処理区死亡率 - 無処理死亡率) / (100 - 無処理死亡率) } × 100

2) 採集日: 令和7年4月21日

3) 検定日, 4) 試験方法, 5) 展着剤は表1と同じ。